

2022年



大里

浜戸祭り

大里地区の浜戸祭りとは船祝いは正月二日に行われ、その年最初の神事となる。浜戸神社は大里港の東側に位置し、浜戸大神(A)とエビス様(D)、リュウビジン様(E)に海の安全と豊漁を祈願する。

【浜戸祭り】①神事の準備として、十二月三十一日に浜戸神社の各祠に、輪にしたしめ縄、ダイダイやユズリ葉や松などを供える。②昔は各家から神様に供えるお米(花米)を集めた(B)。花米の中から二合分をたずさえ、御神酒を瓶に注いでユズリ葉(五月の浜戸祭りでは萩の葉をさす。③次に塩サバ二匹を使って『かけの魚(イオ)』を準備する。エビス様の祠の前に下げてお供えするために、一匹ずつ左藁縄(神事に用い左ひねりになわれた縄)を結ぶ(D)。④一人はお供え物を持ち、一人は太鼓を叩いて浜戸神社へゆく。⑤祠の前で二匹のハラ身を切り取って、その身を半分に分けて、それをさらに三つに切って、それぞれの神様へ供える。祝詞(のりと)をあけて(F)儀式は終わる。

【船祝い】浜戸祭りの後に船祝いをする(G)。①進行役がなますを作り刺身を添えて船祝いを始める。刺身は浜戸祭りで供えた魚を緑起物として使う。②お供え物は、かけの魚二匹、花米二合と御神酒。

浜戸祭りは旧暦の五月にも行う。浜辺を整備する前は、五月の参拝後に家族が岩間に木綿の糸を垂らして、大里でゴモー(H)と呼ぶ小魚を釣った(I)。餌は貝。今は釣り場がなくなって途絶えている。

思い出話

「ゴモーの釣り場は今は砂浜ですが、昔は大きな石だらけ(写真I)で、石の上を走ったり、漂着物を探したり、よい遊び場でした。」

大里地区六〇代男性

1

